

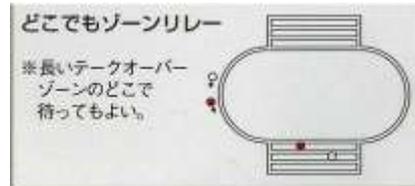
## Q-28 子どもの活躍場面を増やすためにどんな工夫ができますか。

A 体育科の学習に限らず、運動の場面では技能が特に高い子どもばかりに注目が集まりがちですが、より多くの子どもが活躍できるような場면을意図的に設定したいものです。

### 学習

#### ○技能に応じた楽しみ方の提示

- ・「2ライン、3ラインリレー」や「どこでもゾーンリレー」、「みんなで□周リレー」等で、個々の走る距離を走力に応じて工夫する



- ・陸上運動で、目標記録の得点をチームで競い合う
- ・「ウイングサッカー」で、ボールを手で扱いフリーに動けるウイングマンを設定する

※その他、個々のめあてや技能に応じた場を選択できるようにする手立てのすべてが、技能に応じた楽しみ方の提示になります

#### ○見学時の学習活動の保障

- ・ペアやグループの子にアドバイスしたり、ボール運動でチームの記録をとったりする学習の機会を保障する

#### ○振り返り場面の工夫

- ・体育学習の振り返り場面を、単に技能が高い子の発表の場とせず、ほんの少しであってもめあてが達成できた子どもを称賛する場面とする

### 行事

#### ○運動会補欠選手リレー（運動会後の休み時間等に実施）

- ・選手と同様に練習に励んできた、補欠選手が活躍できる
- ・運動会当日の体調不良で出場できなかった選手にも、出場の機会を提供できる
- ・全校が一つになって盛り上がる興奮を、もう一度味わうことができる

#### ○運動会個人種目の選択制

- ・徒競走に加えて、ハードル走や長距離走を選択できるようにすることで、短距離の走力以外の能力を発揮することができる